学校番号	218

平成 31 年度　家庭科

教科	家庭	科目	(学)子どもの成長	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主制作プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・子どもへの関心を、保育園実習でより高め、子どもの発達や特性に関する理解を深め知識と技術を身につけます。
・子どもの発達や特性に関する知識を活かし、遊びを通して子どもの発達を促す方法を保育園実習での体験やワークショップ等を通じて学びます。
・自分自身が親になることを考えるなど自分の問題として捉え、家族の役割、地域の役割を考えます。

2　学習の到達目標

保育の意義について、自分自身が親になることを考えるなど自分の問題として捉え、子どもの発達や子育てに関心をもち、関わろうとする意欲と実践的な態度を育てる。子どもの発達と保育について知識と技術を習得させ、豊かな心を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	子どもの発達と保育に関心を持ち、主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	子どもの発達と保育の課題を見いだし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	保育園実習を通して、子どもと適切に関わることができたり、子どもの健やかな発達を支援したりするために必要な技術を身につけている。	子どもの発達と保育に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
評価方法	学習状況の観察 ﾜｰｸｼｰﾄの記述 制作計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価　等	学習状況の観察 ﾜｰｸｼｰﾄの記述 制作計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価　等	学習状況の観察 ﾜｰｸｼｰﾄの記述 制作物評価 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価　等	学習状況の観察 ﾜｰｸｼｰﾄの記述 制作計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価　等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4月 5月 6月 7月	乳幼児の保育　保育園実習	子どもの遊びと発達 家庭保育と集団保育 保育園実習準備 ・名札作り ・おもちゃ作り ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝのとりかた 保育園実習 ・子どもの成長過程を理解し、楽しく仲良く遊ぶ	○ ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	a・出席状況、発問の応答 ・学習内容に関心をもち、意欲的に取り組もうとしている ・子どもたちに積極的に関わろうとしている b・子どもの成長過程に合わせた対応ができる ・安全に配慮することができる c・おもちゃに安全性と工夫がある d・子どもの心と体の発達について知識を身につけている	授業観察 制作物評価 ﾜｰｸｼｰﾄ 実習ﾚﾎﾟｰﾄ 自己評価表
8月 9月 10月 11月 12月	乳幼児の発育と発達　いもほり・保育園実習	乳幼児期の発達の特徴 子どもの生活 子どもの福祉 保育者の関わりの重要性 いもほり、保育園実習 ・学習指導案作り ・おもちゃ作り ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝのとりかた	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○ ○	a・出席状況、発問の応答 ・学習内容に関心をもち、意欲的に取り組もうとしている ・子どもたちに積極的に関わろうとしている b・子どもの発達段階を考えた遊びを提案できる ・安全に配慮することができる ・親になることを考えるなど、問題意識を感じながら、学習を深めている c・おもちゃに安全性と工夫がある ・芋ほりを安全に実施することができる d・子どもの発達・発育を理解している ・発達段階に応じた対応を理解している	授業観察 制作物評価 ﾜｰｸｼｰﾄ 実習ﾚﾎﾟｰﾄ 自己評価表 定期考査
1月	まとめ	子どもの食事と栄養 ・調理実習 一年間のまとめ	○	○		○	a・出席状況、発問の応答 ・学習内容に関心をもち、意欲的に取り組もうとしている b・子どもに関する自分の考えをまとめることができる d・子どもの栄養について理解している	授業観察 提出課題 自己評価表

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:技能　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。